

学校の学び舎 世田谷区立京西小学校 学校運営委員会だより



平成 27 年度 第 8 号
ようがの学び舎
世田谷区立京西小学校
学校運営委員会
委員長 真鍋 和裕

祝！ 開校記念日

用賀の街と歩み続けた 136 年

12月5日(土)は開校記念もちつきでした。朝早くからかまどに火を起し、大勢のお手伝いの保護者や地域の方も集まり準備万端。子どもたちの元気な掛け声とともに、155キロものもち米がつきあがりしました。

この日は午後から第8回学校運営委員会が開催されました。校長先生より近況報告があり、子どもたちが朝マラソンや縄跳びに取り組み、健康増進と体力向上に努めていた様子も伝えられました。間もなく長かった2学期が終わり、年度末まで残りの授業日数は50日あり、次年度の計画作りを進めながら、3学期も精力的に授業に取り組みます。

また、生活指導主任の堤先生より、子どもたちの日々の生活の様子も報告されました。



学校では定期的にアンケートを実施して、嫌がらせを受けたり、悩みを抱えていないか、子どもたちの生の声に注意深く耳を傾けています。「いじめ防止」には世田谷区全体で取り組んでいます。600人を超す子どもがひしめく学校ですから、時に小さないざこざはあります。それらが深刻ないじめにつながらないよう、教職員・保護者が連携して子どもたちを見守っています。

運営委員会の各プロジェクトも、来年度に向けた活動計画作りを本格的に進めています。地域運営学校として、保護者や地域の皆様と一緒に子どもたちを育む学校づくりに努めています。

京西小学校 136年のあゆみ



明治 12 年 12 月 10 日、児童 66 名、教師 2 名で、京西小学校がスタートしました。伊藤博文公の命名で「京西學校」と名付けられ、当初は、瀬田村と用賀村の両方から通いやすいよう、現在の玉川台 1 丁目付近に校舎がありました。昭和 14 年に現在の場所に移転しましたが、今も跡地には碑が残っています。



100 周年の年に、もちつきが始まりました。子ども神輿が街を練り歩き、地域総出で祝いました。120 周年の年には、第二校歌「京西さくら組」が作られ、今も子どもたちが元気よく歌っています。



今年は創立 136 年。開校記念集会では、子どもたちがクイズや劇を披露し、京西小学校の歴史を振り返りました。

明治12年って どんな年？

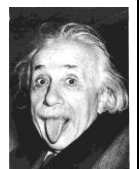
世田谷区で一番古い小学校は創立 144 年の若林小学校。東京都でも 2 番目に古い学校です。それから 3 年後に玉川小学校が開校し、その様子を見た用賀村・瀬田村の住民がお金を出し合って、明治 12 年(1879 年)に京西学校、今の京西小学校が開校されました。この年、日本ではコレラが大流行し、琉球処分が設置されました。

学校	開校年	創立年数
若林	明治 4 年	144 年
烏山	明治 6 年	142 年
玉川	明治 7 年	141 年
塚戸	明治 8 年	140 年
桜	明治 12 年	136 年
京西	明治 12 年	136 年
八幡	明治 12 年	136 年

学校運営委員長 真鍋和裕

年末になると日本の各地でベートーベンの第 9 が演奏されます。「平和な世界を求めて人はみな兄弟になる。」この曲をオーケストラと合唱が一体となって、力強さの中に美しいハーモニーを作り出し聴衆を魅了してくれます。子どもたちが通う学校も、保護者や地域の皆さんの参加と協力のもと、運営されていると思います。新しい年も引き続きご協力のほどよろしくお祈りします。

した。海外では、エジソンが白熱電球を発明し、アインシュタインが誕生した年でもありません。玉電が開通するのは、その 28 年後、二子橋が架かるのは、さらに 18 年後のことです。



ようがの学び舎 用賀中学校



2 年生 職場体験で汗を流す



12月16日から3日間、2年生が職場体験として、近隣の商店や事業所、学校などに赴きました。京西小学校にも3人の精鋭がやって

きて、朝早くから清掃や事務作業に精を出しています。学習の場としての学校はよく知っていますが、仕事場としての学校は未知の世界。何か新たな発見があったかもしれません。



制服進化論 新標準服

平成26年度の入学生(今の中学2年生)から、現在の制服に変わりました。濃いグレーの落ち着いたデザインで、用賀の街をイメージした桜色がポイントで入っています。

近頃は制服も学校選びの指標の一つになるようです。私立学校のように有名デザイナーに丸投げするわけにはいきませんが、選定委員の方たちが熱心に検討し、着心地も重視して細かいところまで工夫を凝らした制服になっています。



定委員の方たちが熱心に検討し、着心地も重視して細かいところまで工夫を凝らした制服になっています。

このゆびとまれ

11月28日(土)、秋晴れの青空のもと、砧公園でウオーキングを楽しむことができました。コマ図と呼ばれる地図をポイントと回ります。道に迷ったグループもありましたが、1時間近くで全員がゴールに到着し、晩秋の砧公園を満喫できました。また、12月のこのゆびとまれでは、クリスマスリース作りとリース作りをしました。小さな松ぼっくりにビーズや色紙など、色とりどりの飾りをつけ、ミニクリスマスツリーの完成です。かわいいうりも一緒に作りました。クリスマスが楽しみです。



このゆびとまれ今後の予定

- 1/16(土) 10:00 こま作り
 - 2/13(土) 14:30 先生企画
 - 3/12(土) 10:00 うどん作り
- 先月号に掲載したご案内に誤りがありました。訂正して、お詫び申し上げます。

学び舎小学校交流

10月18日(金)、1年生が砧公園で用賀小学校と交流会を楽しみました。「ようがの学び舎」は用賀中学校、用賀小学校、京西小学校の3校で構成されます。小学校と中学校の交流はたびたびありますが、小学校同士の交流はあまりありませんでした。用賀小学校と京西小学校は兄弟みたいなもの。同じ地域、同じ学び舎の友人として、切磋琢磨しながら成長していくことだと思っています。



今後、このような交流の機会が設けられています。

変化する用賀の街並み

砧公園の北側、環八と用賀七条通りの交差点にあった歩道橋が老朽化のため撤去され、歩行者は遠回りを強いられていましたが、町会の働きかけにより、まもなく横断歩道が設置されます。



また、上用賀の公務員住宅跡地には、世田谷区により公園と保育施設が整備されることになりました。現在は無人の住宅街となり、夜間は人通りが極端に少なくなります。町会でも警戒警備を強化しているそうですが、日の短いこの時期、安全には十分お気を付けください。

今月の運営委員

運営委員
橋本敦子



今、「基準となる鉛筆」とされている「HB」のシェアが低下しているのだそうです。20年ほど前は全体の半数ほどを占めて首位だったのが、今では2割にまで下がりが、より芯が柔らかい「2B」がトップになったのだそうです。

理由は、子どもの筆圧が下がっていることや間違った持ち方など。私たちが子どもの頃は、「B」や「2B」は低学年、高学年はHBを使いましょう」と学校でも家庭でも言われて、そういうものだと思っていました。ですが、これも時代の流れなのかと感じます。

大人もそうですが、最近では仕事でもパソコンやスマートフォンを使用する場面が多く、鉛筆で文字を書くことも少なくなっています。そんな時代だからこそ、あえて、鉛筆で文字を書くことを味わってみるのもいいのではないかと感じています。



このコーナーでは、11名の運営委員が毎月交代でコメントを掲載します。



今年(2015年)は、動物のついでに、羊の年(2016年)です。羊は、和やかな雰囲気を感じます。今年も、新しい年を迎えたいと思います。白根・青木・古市